キャラクター名: 来 紗与　きたる さよ

プレイヤー名:

シンドローム	ウロボロス ウロボロス	ワークス	占い師	カヴァー	占い師
オプショナル		年齢	24	性別	女
覚醒	生誕	衝動	自傷	初期侵食率	37 %
出自	安定した家庭	経験	出世	邂逅	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	2		0			2
感覚	2		0			2
精神	4	1	0			5
社会	0		0	1		1

HP	29
行動値	9
(非装備時)	9
戦闘移動	14
全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			ＲＣ	4		交渉	1	
回避			知覚	1		意志	2		調達		
運転：			芸術：	2		知識：			情報： 神秘	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
心象風景"スパークル"	ＲＣ	11r+4		15		コンセ:ウロ/赤:災厄の炎/砂の加護
心象風景"スパークル"100↑	ＲＣ	15r+4		18+6d10		コンセ:ウロ/赤:災厄の炎/ストライクモード/砂の加護

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
コネ:サロン	
コネ:要人への貸し	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
超血統	P	N		
来　絹恵	P 幸福感	N 憤懣		
来　結贈	P 幸福感	N 悔悟		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 2	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
統制者の王冠	3	-	常時	至近	自身	自動	ピュア	
効果：	原初による侵蝕率基本-3							
永劫進化	1	3	セットアップ	至近	自身	自動	100	
効果：	ラウンド間の原初のLV+1、回数制限は回復しない。1シナリオ1回。							
コンセ:ウロボロス	2	2	メジャー	-	-	対決	-	
効果：	C値-LV(下限7)							
赤:災厄の炎	5	4+1	メジャー	至近	範囲(選択)	対決	-	
効果：	攻+[LV×3]の射撃攻撃、対象射程変わらない。							
白:ストライクモード	5	6+2	メジャー	視界	単体	対決	80	
効果：	ダメロ+[LV]D、使用武器破壊される							
灰:痛みの極光	10	4+2+1、基本+2	オート	視界	単体	自動	120、自傷	
効果：	自分以外のダメロ+[LV×2]、HP0になる、1シナリオ1回							
虚:崩壊のスフィア	5	2d10+2	オート	視界	単体	自動	120	
効果：	ダメロ+[LV×2]、1シナリオ1回							
紫:砂の加護	4	3+1、基+1	オート	視界	単体	自動	-	
効果：	判定D+[LV+1]、1ラウンド1回							
巨人の影	1	3	オート	至近	自身	自動	-	
効果：	オーヴァードにHPダメージ時、シーン間のエフェクトひとつのLV+2、1シーン1回							
シャドウダイバー	★							
効果：								
道化の出し物	★							
効果：								
イージーフェイカー:スポットライト	★							
効果：	基+1							
効果：								

来 紗与　きたる さよ
基本的には呼び名であるシンシャと名乗る。
私
貴方、お前、きみ
あいつ
性格:冷静、カッとなりやすい、卑屈、捻くれている、アマノジャク、ガードが堅い、
鉄仮面で頑張っている、感動しやすい、子犬・子猫・子供・可愛いもの好き。素は甘えん坊。可愛い感じ（？）
母親譲りの赤褐色の髪に瞳を持つ、冷たい雰囲気の女性。

【生誕】
生まれながらのオーヴァードであり、ウロボロスシンドロームを持つ。
その特性は見た・触れた・受けた痛みを受け取り、己の力として再出力すること。
小さいころはささいな事で泣く泣き虫だった。感受性が高すぎるため、悪意やショックなでき事に弱い。ちょっとの傷で大泣きする。
ちょっとの傷で大泣きし、壁に大穴をあけたり、コンクリート壁を壊したり、ずいぶんと危険な子で両親はかなり苦労していた。
それでも、両親は紗与を愛してくれたし、幸福な記憶の方が多かった。

【父親不在】
母親が消えてから、父は荒れるようになった。
片親で生きていけるほど柔軟で前向きな人柄ではなかったし、彼自身衝撃的すぎたのだろう。
そのショックをどうすることも出来ないまま、彼自身の傷が紗与に力を与え、さらなるトラブルを生む。
ある夏の夜、花火の帰り道、父は倒れた。慣れない生活ながらの努力が崇ったのだろう。
紗与の叫ぶ声は花火の音でかき消され、手遅れとなり父は死んだ。